

平成29年度 宮城県試験研究機関評価委員会 第1回 工業関係試験研究機関評価部会

機関運営に係る評価部会実施結果

1 評価部会委員

評価部会委員名	所属・職名等	摘要
内田 龍男	株式会社インテリジェント・コスモス研究機構 代表取締役社長	部会長
舘田 あゆみ	国立大学法人東北大学大学院工学研究科情報知能システム研究センター 特任教授	副部会長
竹渕 裕樹	一般社団法人みやぎ工業会 理事長	
小池 美穂	株式会社マテリアル・コンセプト 代表取締役社長	
松田 宏雄	国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター 所長	
佐藤 幸太郎	東北電子工業株式会社 取締役会長	

2 評価対象機関

工業関係試験研究機関：宮城県産業技術総合センター

3 評価項目

(1) 項目別評価

- ①研究機関の運営方針・重点分野
- ②研究開発・技術支援体制
- ③研究者の確保・育成
- ④研究施設・設備等，研究環境の整備
- ⑤共同研究等産学官連携による研究内容の充実
- ⑥研究成果（成果普及関係業務を含む）の状況
- ⑦技術支援関係業務等の状況
- ⑧研究マネジメント

(2) 総合評価

4 評価結果

「優れている」

- ・ 公設試験研究機関として多くの成果を上げ，十分に使命を果たしている。

5 機関評価表

別紙のとおり。

機 関 評 価 表

評 価 機 関 名	経 済 商 工 観 光 部 産 業 技 術 総 合 セ ン タ ー
評 価 実 施 日	平 成 2 9 年 1 1 月 1 日
評 価 者 名	宮 城 県 試 験 研 究 評 価 委 員 会, 工 業 関 係 試 験 研 究 機 関 評 価 部 会

	評 価 項 目	評 価						
項 目	①研究機関の 運営方針・重 点分野	評価基準 1：優れている		2：概ね適切である				
		3：見直すべき点がある		4：全面的に見直すべきである				
別 別	<評価集計>	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
		1	1	1	1	2	1	1
評 価	1：5人 2：1人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 重点的研究分野は適切であり，実用化された製品や支援事業の実施等でも優れた成果を上げている。今後も将来を見据えた適切な研究分野を設定して有意義な仕事を続けていかれることを期待する。</p> <p>舘田副部会長： 重点注力産業分野，基盤技術，先導的な技術開発について，非常にバランスよく運営されており，定量的な成果指標についても申し分ないと思います。</p> <p>竹渕委員： 運営方針・重点分野の設定が，成果指標の数値実績からみて適切であったと評価できる。H25年以降の支援製品の売上が急増しているのは当センターが地元企業の研究開発センターとして機能している証と考える。</p> <p>小池委員： 地域の強みが活かされ社会的ニーズに対して適切である。</p> <p>松田委員： 運営方針・重点分野への対応成果を数量的にとらえて自己評価できている。</p> <p>佐藤委員： 地域中小企業支援事業と産学官連携に依る研究と分けて比率を50%；50%と明確にしている点は良いと思います。</p>						
	②研究開発・技 術支援等体 制	評価基準 1：優れている		2：概ね適切である				
		3：改善すべき点がある		4：全面的に見直すべきである				
	<評価集計>	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
		1	2	2	1	2	2	2
	1：2人 2：4人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 適切な体制を組んでいる。</p> <p>舘田副部会長： 実施されている業務ボリュームから考えると，人員が不足しているようにも思われます。効率的に運営されているようですが，各員の負荷が気になりました。</p> <p>竹渕委員： 人工配分における「研究：支援：内部業務」比率が目標である「4：4：2」をほぼ達成</p>						

している。当県の産業構造、目指している方向に見合った工数配分になっていると思う。

小池委員：
PDCAを回す取り組みをしっかりとされている。技術系体制人工配分については、目標値となっているので、今後、特に内部業務が増加しないようバランスを保って頂きたい。

松田委員：
厳しい予算・人員体制を十分カバーして、成果を挙げる体制がとられている。欲を言えば、事務支援体制をより強化して、研究員が研究開発・技術支援に専念できるようにできればさらに良い。

③研究者の確保・育成	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
<評価集計>	2	2	1	2	2	2	2
1：1人 2：5人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 少ない人数で大変努力し、実績を上げていることがわかる。</p> <p>舘田副部会長： 新人の確保や、研修・職員表彰など、計画的に対応されています。</p> <p>竹渕委員： 毎年新卒研究者を採用して代謝を図っており、また研究者の昇進状況から、順調に育成がなされていると考えられる。</p> <p>松田委員： 限られた採用数の中、研修などを活用して育成を図っている。</p>						

④研究施設・設備等、研究環境の整備	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
<評価集計>	2	2	2	2	2	2	2
1：0人 2：6人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 施設設備の老朽化に対して一般財源や発展税によって修繕や更新が進められているのは大変良い。なお、技術の進化の激しい時代に対応できる施設や設備の補充も十分に進められることが望まれる。</p> <p>舘田副部会長： 建屋の改修工事が始まっており安心しました。研究機器や設備は日々技術革新が進んでおり、整備・更新は地域企業の新技術の育成や取組みに非常に重要です。そのための経費については、毎年しっかりと予算化していただきたいと思います。</p> <p>竹渕委員： 限られた予算で、当県の企業が望む最低限の設備は有していると考えます。各種研究予算獲得し、目指している研究が行われていると考えます。</p> <p>小池委員： 研究場所にも拘らず、雨漏りをする状況だったと聞き、県はもっと早期に対応すべきだったと思う。外部資金取得の努力が感じられる。</p> <p>松田委員： 建物の老朽化対策工事の真っ最中であつたが、対策を講じていることがよく分かった。</p>						

⑤共同研究等 産学官連携 による研究 内容の充実	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：交流は見られるが、さらに機会を増やすべきである 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	2	1	2	1	1	2	2
<評価集計> 1：3人 2：3人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 他機関と積極的に共同研究を進めている。特にデジタルエンジニアリング研究会やCFRP研究会を立ち上げて主体的に連携していることが高く評価される。</p> <p>舘田副部会長： 県内外の様々な関係機関と、重点分野に沿った共同研究等を実施されており、各所で存在感を発揮していると思います。</p> <p>竹渕委員： 県内技術系大学、研究機関との連携、次世代技術の追求、地域連携によるコメディカル分野の追求等、積極的に外部との連携を図っている。</p> <p>小池委員： 限られた予算の中で十分な連携、交流ができています。</p> <p>松田委員： 外部機関との連携や競争資金の獲得が十分行われている。</p>						
⑥研究成果(成 果普及関係 業務を含む) の状況	評価基準 1：優れている 2：平均的な成果である 3：今後可能性がある 4：全く貢献していない						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	1	1	1	1	2	2	1
a. 産業・社会 的ニーズに 貢献しうる 成果が十分 あがって いるか。 <評価集計> 1：4人 2：2人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 多くの実用化事例がみられ、冒頭で示されたように高い売り上げに結びついている。</p> <p>舘田副部会長： 地元企業の新商品開発に貢献したものが多々あり、産技センターの関与によって、魅力的な商品になっていると感じます。</p> <p>竹渕委員： 自らの得意分野、重点分野において企業の商品化への技術協力がなされている。技術支援の製品売り上げが伸びているのは十分な成果。</p> <p>小池委員： 技術シーズレベルからいくつもの商品を作り出し、売り上げ実績も期待以上だった。</p> <p>松田委員： 短時間で全ての成果をサーベイできたわけではないが、紹介された例からは十分な成果が窺えた。</p>						

b. 研究成果の普及体制が適切に構築されているか。また普及実績は十分か。	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	1	2	1	2	2	2	2
<評価集計> 1：2人 2：4人 3：0人 4：0人	内田部会長： 各企業のビジネスに合わせた研究開発支援が行われているために、おのずと製品化が進み、普及していると見られる。この点で有効な方法と考えられ、高い実績があげられている。 舘田副部会長： 成果の普及は難しい課題ですが、事例集など地道に取り組まれています。また、企業向けだけでなく一般向けの施設見学会など、様々な工夫をされていると思います。（一般向けの見学会は、お子さんを連れて参加した方から「すごく面白いですよ。」との感想を聞きました。） 竹渕委員： 各種の相談会やセミナーを適時行っている。 工業会会員の話でも、当センターに対して信頼を置いていると感じている。利用も多いと感じている。 松田委員： 外部機関からの表彰も多く受けていることから、十分な実績が挙げられていると認められる。						
⑦ 技術支援関係業務等の状況	評価基準 1：位置付けている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	舘田 副部会長	竹渕 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	1	1	1	1	1	2	1
a. 当該技術支援業務が地域産業の高度化を直接的に助長する業務として組織全体の業務の中に明確に位置付けられているか。 <評価集計> 1：5人 2：1人 3：0人 4：0人	内田部会長： 地域企業の高度化を意識して、技術相談、試験分析、施設・機器開放、技術改善支援などの仕組みが作られており、組織全体での位置づけが明確である。 舘田副部会長： 技術支援が、重要な業務の1つとして明確に定義されており、その実績も十分な内容だと思います。 竹渕委員： 技術支援が工数配分のトップにあることと、支援事業件数も増えていることから地域企業に密着していることがわかる。 松田委員： 研究と技術支援の業務バランスを上手に図り、位置づけも明確であって、職員の意欲を高める工夫がなされている。						

b. 当該技術機 関における 明確な方針 の下で地域 産業の高度 化に十分貢 献し得るも のとなっ ているか。	評価基準 1：貢献している 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	館田 副部会長	竹淵 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	1	1	1	1	1	2	1
<評価集計> 1：5人 2：1人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 特にDE事業やベンチマーク事業等で高度化に貢献し得る姿勢がみられる。</p> <p>館田副部会長： 地域の、特に中小企業にとって必要な取組みがなされており、地域企業が高度化を目指す場合の一番の窓口となっていると感じます。</p> <p>竹淵委員： 自動車産業分野の新たな支援策として、ベンチマークキングによる提案型研究開発促進事業を始めたことで、地元企業の参入機会を増やす効果が上がると考える。</p> <p>松田委員： 研究会などのしくみを活用して、うまく展開している。</p>						
⑧ 研究マネジ メント	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	館田 副部会長	竹淵 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
	2	1	2	1	2	1	2
<評価集計> 1：3人 2：3人 3：0人 4：0人	<p>内田部会長： 運営に対して各種の仕組みが構築されており、マネジメントも適切と考えられる。</p> <p>館田副部会長： センター内のコミュニケーションが非常にうまくいっている印象を受けました。研究員の方も前向きに誇りを持って業務にあたっている様子であり、組織マネジメントが適切に行われていると感じます。</p> <p>竹淵委員： 正しく、適切に運営されていると感じる。</p> <p>小池委員： 企業の効果的なマネジメントを適切に取り入れている。</p> <p>松田委員： センター内のコミュニケーションを十分図り、意思疎通がスムーズである。</p> <p>佐藤委員： 各部門を視察したが、各担当の方が目標を明確にして自信満々で説明されている。これは、労務管理マネジメントが非常に良いことの結果と思う ⇒やる気、本気度があふれている。</p>						

総合評価	評価						
	評価基準 1：優れている 2：概ね適切である 3：改善すべき点がある 4：全面的に見直すべきである						
	内田 部会長	館田 副部会長	竹淵 部会委員	小池 部会委員	松田 部会委員	佐藤 部会委員	平均 評価
<評価集計> 1：5人 2：1人 3：0人 4：0人	1	1	1	1	2	1	1
	<p>内田部会長： 公設試験研究機関として多くの成果を上げ、十分に使命を果たしている。</p> <p>館田副部会長：</p>						

地域の中で、大きな存在感を持っており、その使命を十分に果たしていると思います。日々技術革新が進む中で、新たなトレンドや課題が出た際に、柔軟にチャレンジ・対応できるような体制を維持していただきたいと思います。

竹淵委員：

実績から見て十分な貢献をしていると思う。企業の間でも当センターが以前より身近になった、利用しやすいという声も聴く。実際、センターの協力で生まれている新製品が増えてきた。

小池委員：

貴センター貢献により、地域でのプレゼンスが以前よりかなり大きくなってきている。

松田委員：

県内産業界から頼りにされていることがよく分かった。

佐藤委員：

75名のスタッフで、広域分野できちんと成果を出している点、高く評価できます

内田部会長：

適切な方針と運営のもとに活発に活動し、高い成果を上げている。東北地域は優れた部品材料などのモノづくり企業が多く存在するが、それを更に高度化するための支援の努力も高く評価される。公設試験研究機関としては十分な役割を果たしていると言うことができるが、ここまできると更なる望みとして、関連企業を連携させ、新たな優れたシステム製品を生み出して、全国、さらには世界に大きく進出することを誘導することができれば、との期待もわいてくる。このためにも一層の人員や予算の投入が望まれる。

竹淵委員：

いままで、辛口の批評をしてきましたが、当センターがマーケティング指向になってきたということが実績面から理解できます。

自動車関係で、ベンチマーキングのうえ、企業を巻き込んで提案型開発を行おうとする姿勢は大いに評価させていただきます。ほかの分野でも是非とも同じような考え方で進めていってほしいと思います。引き続きみやぎ工業会の会員の研究開発センターとして寄り添っていただきたくお願いします。

小池委員：

全職員の地域貢献の意識が非常に高く、黒子のように企業を支援され地域にとってありがたい機能です。

市場の状況により、開発の優先度や製品仕様を変えていく必要があり、マーケティング機能を加え、中小企業に情報を発信いただくと効率的なものづくりが可能となる。

分析、解析力が強化できると、開発方針の裏付けをとり確実な方向に進めるため、中小企業にもその力がつくようご支援頂きたい。

佐藤委員：

産業技術総合センターは、地元企業の活性化支援では広いジャンルで必要とされています。ぜひ、働き方改革の一環として退職技術者採用を増やし(30名)、退職者の生きがい創りと能力を中小企業支援に廻していただければ幸いです。

その他意見等